鍛冶屋敷Ａ遺跡
文字が刻まれた砥石発見！

□下□
謹解　□
合□□　申請稲事　有有有

仙台市太白区富田にある鍛冶屋敷Ａ遺跡で、平成26年2月に富沢駅西土地区画整理事業に伴う発掘調査が行われました。その調査で、平安時代(9世紀後半頃)の竪穴住居跡から砥石に文字が刻まれた「刻書砥石」が発見されました。

最も文字が多く刻まれた面には、「謹解　申請稲事　合」【書下し：謹んで解し申し請う稲の事　合わせて･･･】とあります。これは古代の上申書(役所に提出する書類)の書式で、鍛冶屋敷Ａ遺跡にはこのような文書に係わる人がいたことがうかがわれます。このことから、定型化された書式が古代の地方社会にも広く知られていたことを意味します。文字が刻まれた砥石は東北地方で初めての発見です。

出前授業に行ってきました！

子どもたちの感想から

- たくさん仙台の工夫・良い所を見つけられました。なので，もっと仙台を好きになれました！
- 縄文土器のかけらについていたもようがとても気になったので，もっと知りたいと思いました。
- 写真では感じられないさわりごこちや厚さを体験できて，歴史に興味を持ちました。

平成 26 年度はたくさんの学校から出前授業の依頼をいただきました。子どもたちは仙台から出土したホンモノを見て・触れて・考えることで，キラキラした目で意欲的に学習に取り組んでいました。平成 27 年度もさらに工夫を重ねてより良い出前授業を実施していきたいと考えていますので，ぜひご活用ください!!

まずは電話でお気軽にお問い合わせください。日程を調整の上，ご要望に沿った内容で文化財教諭が授業を行います。　担当：文化財課　整備活用係　電話 022-214-8893

文化財せんだい

No.111
平成27年(2015年)3月発行

仙台市教育委員会文化財課
仙台市青葉区一番町4－1－25
東二番丁スクエア3階
〒980-0811　Tel.022-214-8893

仙台城跡 石垣の修復工事が終了しました！

仙台市では、東日本大震災で被災した仙台城跡石垣の復旧工事を、平成 24 年度から行ってきました。平成 25 年度末までに本丸北西石垣南側と中門石垣、酉門石垣、大手門北側土塀・石垣の修復が終わっていました。平成 26 年度は残っていた**本丸北西石垣北側**と**清水門石垣**の積み直しを行い、無事に工事を終えることが出来ました。これにより仙台城跡の被災石垣復旧が完成し、石垣は震災以前と同様の姿に戻りました。

併せて、震災で傷んだ市道仙台城跡線の復旧改修工事も行われ、石垣復旧工事のために震災後通行止めとなっていた道路の通行を再開することが出来ました。

修復後の**酉門石垣**
自然石をそのまま積んだ野面積みの石垣が多く残っています。

修復後の**本丸北西石垣**
江戸時代から今までに何度も修復していることがわかりました。

修復後の**中門石垣**
ほぼ全体を積み直しました石垣を間近で見ることが出来ます。

修復後の**清水門石垣**
古写真を元に、隅角部の石材を昔の積み方に戻しました。

修復後の**大手門北側土塀･石垣**
仙台城跡で唯一残っている江戸時代からの建造物です。

空から見た 仙台の遺跡・史跡

遺跡・陸奥国分寺跡～歴史と文学のふるさと

陸奥国分寺跡は，仙台市若林区木の下2丁目～3丁目に、いにしえの宮城野の地に接して、広がっています。奈良時代に、国ごとに国分寺と国分尼寺がつくられました。現在は、陸奥国分寺の講堂跡に、政宗が建てた薬師堂があります。また、毎月8日には，手づくり市が開かれ，人々の憩いの場として親しまれています。ここも江戸時代に松尾芭蕉が訪れたことから、「おくのほそ道の風景地」として、国の名勝に追加指定される予定です。

名勝・榴岡～古来からの歌人あこがれの地

「つゝじが岡」は、古くから歌枕に詠まれた陸奥国の名所です。萩で知られる「宮城野」とともに、歌人の憧れの地でした。江戸時代にも、俳人・松尾芭蕉が『おくのほそ道』の道中で訪れています。仙台藩四代藩主伊達綱村により、釈迦堂の建立と周辺整備が行われて以来、桜の名所としても親しまれています。「おくのほそ道の風景地」の１つとして、国の名勝に追加指定される予定です。

遺跡・富沢館跡～伊達家家臣の屋敷跡

太白区富沢にある中世の館跡で、江戸時代には伊達家の家臣の在郷屋敷となっていました。東西・南北ともに約300mの規模と考えられ、中心部に良好に残る土塁が全長約140m、幅約13m、高さ2mの規模であることがわかりました。また、中心部を取り巻く細長い水田は堀が埋まった跡と考えられます。出土遺物は鎌倉時代～室町時代や江戸時代の陶磁器などがあります。

遺跡・西台畑遺跡～多数の竪穴住居

あすと長町土地区画整理事業地内では、平成10年から発掘調査を行っています。今年度も、西台畑遺跡内の3箇所で発掘調査を行いました。これまでの調査では、主に古墳時代から奈良時代の竪穴住居跡が、600軒以上発見されています。郡山遺跡に造られた官衙（国の役所）の西側一帯に、官衙の造営や運営に携わった人々の集落が広がっていたことが明らかになってきています。

遺跡・沓形遺跡～津波の被害を受けた水田跡

沓形遺跡では，これまでの調査で弥生時代中期の水田跡が見つかっており，約2,000年前の津波の被害を受けて廃絶したことが分かっています。

今年度の調査でも津波の砂に覆われた弥生時代中期の水田跡が確認されました。大畦畔（幅約2～3m）と小畦畔（幅約30～50cm）で区画され，水田一区画の面積は約20～90㎡です。